

平成25年度
友好提携都市中学生国際交流プログラム
韓国務安郡派遣研修報告書

派 遣 平成25年8月5日（月）～9日（金）

受入れ 平成25年7月23日（月）～25日（水）



北名古屋市
北名古屋市国際交流協会

目 次

● 北名古屋市中学生の韓国務安郡派遣日程表	1
● 友好提携都市中学生国際交流プログラム参加者名簿	2
● 務安郡での研修交流体験アルバム	3
● 研修交流体験レポート	
①徳竹 菜月 (西春中学校)	6
②松下 優莉 (西春中学校)	8
③水野 綺音 (西春中学校)	10
④山田 詩織 (西春中学校)	12
⑤八鍬 宗親 (師勝中学校)	14
⑥加藤 伶奈 (西春中学校)	16
⑦東山 蓮 (西春中学校)	18
⑧犬飼 ありさ (白木中学校)	20
⑨宮田 千絃 (白木中学校)	22
⑩酒井 裕資 (熊野中学校)	24
⑪中串 茉裕 (熊野中学校)	26
○参加中学生自らが、それぞれのページを、文章、写真、ページレイアウトに いたるまで作成しました。	
● 務安郡青少年交流団受入れ滞在日程表	29
● 北名古屋での研修交流体験アルバム	30

北名古屋市中学生の韓国務安郡派遣日程表

月／日／曜	時間	便名等	内 容	備 考
1 日目 8月5日(月)	8:30 9:05～9:48 11:50～13:50 14:30～18:00 18:00～19:30 19:00～20:00	岩倉駅集合 名鉄 OZ121(アシアナ航空) 専用バス ホテル着	岩倉駅→セントレア駅 中部国際空港発→仁川国際空港着 ソウル市内へ移動 夕食	(ホリディインソウル城北泊)
2 日目 8月6日(火)	8:00～9:00 9:20～12:01 12:10～13:00 13:00～14:25 14:30～15:30 16:00～17:30 18:00～19:30 20:00	専用バス KTX 専用バス	ホテル発→龍山駅 ソウル龍山駅→光州松汀駅 光州松汀駅出迎え/務安移動 昼食 務安郡庁訪問 →郡守、教育長接見 →中学生交流会 茶道体験及び韓国文化体験 →草衣禪師生誕地訪問 歓迎晩さん会 ホテル着	務安郡中学生合流 保護者合流 (チャムセゴルファントベンジョン泊)
3 日目 8月7日(水)	8:00～8:30 8:30～9:00 9:00～9:20 9:20～12:30 12:30～13:00 13:00～14:10 14:20～15:40 16:20～17:20 17:30～18:00	専用バス	朝食 スンダル芸術会館集合(務安郡中学生) 移動 パド牧場体験(チーズ、牧場、潮干狩り体験) 移動 昼食 生態潮干潟センター見学 木浦大学校博物館見学 ホームステイ先に移動	務安郡中学生合流 保護者出迎え(ホームステイ)
4 日目 8月8日(木)	8:30～9:00 9:30～10:20 10:30～10:50 11:00～12:10 12:10～13:10 13:34～16:18 16:18～18:00 18:00～19:30 19:30～20:00	専用バス 専用バス KTX 専用バス ホテル着	スンダル芸術会館 フェザン白蓮池見学 ホダム航空宇宙展示館見学 昼食 光州松汀駅 移動 光州松汀駅→ソウル龍山駅 ソウル市内へ移動 夕食 チェックイン	北名古屋市中学生集合 (ホリディインソウル城北泊)
5 日目 8月9日(金)	9:00～14:00 (11:00～12:00) 15:00～16:50 17:30～19:00	ホテル発 専用バス 昼食 OZ124(アシアナ航空) 専用バス	仁川国際空港発→中部国際空港着 中部国際空港→西庁舎前到着、解散	

友好提携都市中学生国際交流プログラム参加者名簿

①北名古屋市中学生の務安郡派遣交流団名簿

学校名	学年	性別	氏 名
西春中学校	2	女	徳竹 菜月
西春中学校	2	女	松下 優莉
西春中学校	2	女	水野 綺音
西春中学校	2	女	山田 詩織
師勝中学校	1	男	八鍬 宗親
西春中学校	1	女	加藤 伶奈
西春中学校	1	男	東山 蓮
白木中学校	1	女	犬飼 ありさ
白木中学校	1	女	宮田 千紘
熊野中学校	1	男	酒井 裕資
熊野中学校	1	女	中串 茉裕
北名古屋市役所	引率 / 団長		日置 英治
熊野中学校	引率		稻田 譲
西春中学校	引率		渡辺 典恵
国際交流協会	引率 / 事務		伊藤 慶子

②韓国務安郡青少年交流訪問団名簿

学校	学年	性別	氏 名
務安北中学校	1	男	丁 栽喜
務安中学校	1	男	李 民遇
南岳中学校	1	男	李 瑞源
夢灘中学校	1	男	崔 滿守
玄慶中学校	1	男	金 孝成
海際中学校	1	男	曹 英碩
務安北中学校	1	女	洪 秀珉
務安中学校	1	女	安 敏瑛
夢灘中学校	1	女	金 秀彬
清溪中学校	1	女	丁 秀眞
望曇中学校	1	女	鄭 イエジ
海際中学校	1	女	張 允貞
望曇中学校	引率 / 団長		姜 振遠
務安中学校	引率		朴 美恩
務安郡	引率		成 子鉉
	通訳 (ガイド)		キム・ボクマン

8/6

郡守表敬訪問

務安郡での研修交流体験 アルバム



歓迎会



歓迎会



韓国文化体験



歓迎会記念写真



歓迎会

8/7

生態潮干潟センター見学



朝食



体験学習（パド牧場）



体験学習（潮干狩り）



体験学習（チーズつくり）



昼食



昼食



木浦大学博物館見学

8/8



昌徳宮（ソウル）



8/9



研修交流体験レポート

北名古屋市立西春中学校2年 徳竹菜月

1. 国際交流プログラムで学んだこと

私が、この国際交流プログラムで学んだ事の中で、特に印象に残っているものが、3つあります。一つ目は言葉です。韓国に行くために韓国語のレッスンを数回しました。そのため、自己紹介ぐらいは、できるようになります。

韓国語のレッスンで気付いた点と、実際に韓国の人々の言葉を聞いて気付いた点が、それぞれあります。

先ず、韓国語のレッスンで、英語と日本語では、言葉の並べ方が異なります。韓国語は日本語と同じように、言葉を並べていました。また、日本語と韓国語で、発音が似ているところがいくつかありました。例えば、日本語で「家族」という言葉は、韓国語では「ガゾク」と言います。「か」と「す」に濁点がついただけで、発音はあまり変わらないということが分かりました。次に、実際に韓国の人々の言葉を聞いて気付いた点です。「イムニダ」や「ハムニダ」は文の最後についていたのは、「～です」や「～でした」という意味があると気付きました。



学んだ事の二つ目は歴史で、一番たくさん学びました。ソウルには3つの宮殿がありました。色は、緑と赤で塗られているものがほとんどでした。また、建物の横の長さが長いのが特徴でした。見学したのは宮殿だけではなく、博物館も見学しました。一番印象に残っていることは壺です。それは、昔の人がキムチなどを保管しておく壺です。壺に入れることで長持ちするそうで、どの家庭にもあったそうです。丸い形をしていて、大きいものから小さいものまでありました。色は黒っぽかったです。伝統的な文化として今でも使われているところがあります。

学んだことの三つ目は食文化です。これは、私が韓国に行く前に一番学びたかったことです。おかずがほとんど辛く、味噌汁も辛かったです。お肉はお客様の前で、ハサミで切っていました。味は日本とあまり変わらず、おいしかったです。

2. ホーム・ステイを体験して

中学生国際交流でメインなのは、ホーム・ステイだと思います。私がペアとなった女の子は、中学1年生の「チョン・イエジ」という子です。私は「イエジ」と呼び、イエジは私のことを「ナチュキ」と呼びました。イエジが日本へホーム・ステイに来た時には、銭湯に連れて行きました。色々な所をまわっていて楽しそうでした。次の日には「ショッピングセンター」でアイスを食べたり、お買い物をしたりしました。私が韓国へホーム・ステイに行ったら、イエジのおじさんと、おばさんと、いとこと双子のお姉さんが迎えてくれました。そして、みんなで「ビビンバ」を食べに行きました。日本でも「コチジャン」という辛い味噌をかけますが、韓国では大人だけではなく小さな子供でも大人と同じ量をかけていました。イエジのいとこはまだ7歳ですが、私よりも「コチジャン」をかける量が多く、お米が真っ赤で驚きました。次に少し遠い



ところのショッピングセンターまで買い物に連れて行ってくれました。そこで、沢山の食べ物を買ってもらいました。ここで、日本との違いを見つけました。スーパーのレジの所がコンベアーになっていて、次々と商品が流れていきました。ここが日本よりも技術が進んでいる所だと思いました。色々な所へ行って気付いた点が2つあります。まず、韓国の中学生は

身体が大きかったです。大人にしか見えない人もいました。次に日の入りが50分遅いことです。夏は夜の8時でも明るかったので、少し気持ち悪く感じました。もう二度とできない、とても良い経験になりました。

3. これからの北名古屋と務安との交流について

私はこの中学生交流をこれからも続けてほしいと思います。なぜなら普通の日本人の中学生が、韓国の一般家庭の家に泊まらせていただくななど、一生に1度、あるか無いかぐらいのホーム・ステイを体験できると思ったからです。その他にも、「チマチョゴリ」を着たり、韓国伝統式のホテルに泊まったりなど、あまりできない体験をする事ができました。とても充実して勉強ができたと思います。そのため、もっと多くの中学生に体験してもらいたいと思いました。しかし、体験してもらいたい理由はもうひとつあります。それは、今回応募が少なく生徒が11人しか派遣する事ができず、ひとり足りませんでした。本来なら男子6名、女子6名の所、男子3名、女子8名と複雑な状況になってしまい、務安の方に迷惑をかけてしまったと思いました。そんな事が無いためにも、このようなプログラムができる地域は積極的に取り入れていき、もっと沢山の人が応募し参加する必要があると思います。そうすれば、中学生国際交流を続けていける、というプラスになる事があります。年がたつにつれて参加する人が増えていく中でこの事が広がっていき、知ってもらえばいいなと思いました。続けていくとどうしても直すべき課題が増えていくと思います。しかし、そんな課題も無くしていけば、この中学生国際交流は、より良いものになると私は思います。



研修交流体験レポート

北名古屋市立西春中学校2年 松下 優莉

1. ホーム・ステイを体験して

私は務安郡の友達の家でホーム・ステイを体験しました。私を泊めてくださった家では唐辛子を育てていました。やっぱり韓国の人々は辛い食べ物が好きなのだなとあらためて思いました。生活面で驚いたことは、私たち日本人が毎日当たり前のようにしていることが、外国では全く違うのだなと感じました。

韓国に行くということが決まってから、楽しみでありながらも不安だったのが言語です。言葉が通じない外国で心配もありましたが、自分で本や音楽、テレビなどであらかじめ勉強していった言葉を使って会話をすることができました。話が通じたので、勉強してよかったです。これからもたくさん韓国語を覚えてもっと話せるようにしたいです。

私がホーム・ステイをさせていただいた時、夕食で焼肉屋に行きました。車で店に向かったのですが、道路を見ると青い線が引いてあることに気づきました。疑問に思って聞いてみると、それはバス専用道路だと教えてもらいました。日本にもそういったものがあるのかなと思ったので、日本に帰ったら調べてみようと思いました。

務安郡の友達や家族の方と仲を深め合うことができて嬉しかったです。それに日本とは違う、慣れていない生活を体験できたことがなによりも大切な思い出になりました。

2. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

私は日本と韓国の食生活や歴史等の違うところ、同じところを知りました。

食生活では沢山の違うところがあります。1つ目は食べ方です。日本人はお茶碗を持って食べますが韓国ではお行儀が悪いといわれているため持って食べないそうです。日本人はほとんど箸を使って食べますが韓国人はスプーンを使って食べます。

2つ目は食べる時です。日本では食べる順番は決まっていますが韓国では一番偉い人から食べるそうです。ですから一番下の人は最後まで待っていないといけないので大変だと思いました。そして日本は椅子に座って食べますが韓国では小さい机で胡坐をして食べるそうです。

歴史については、日本は縄文時代から今の平成となっています。その中で日本が安土桃山時代から江戸時代の時、韓国では朝鮮王朝時代といって王様のいた時代がありました。王様がいたという事もあり韓国にはおもに4つの宮殿があったそうです。日本では武士のいる時代でしたのでお城があります。



右の写真を、ご覧下さい。日本にあるお城と見比べてみると色や造りが違うことに気がつくと思います。韓国は日本の直線形と中国の曲線形を合わせた造りになっているのです。色では韓国の方が鮮やかのがわかります。

私は音楽が好きです。最近では、韓国の音楽K-POPを日本でもよく聞くようになりました。例えばK A R Aや東方神起などが日本で活躍しています。反対に韓国ではS M A Pの曲が流行っているそうです。



3. これからの日本と韓国の交流について

今日本と韓国は領土問題で競い合っています。しかし、私たち北名古屋と務安郡がお互いに訪問し小さいことからでも日本と韓国の競い合いがなくなり、日本と韓国のドラマや音楽・特産物などをもっと親しみ、共有できたらいいなと思います。また、旅行などで交流し、交友関係を作り、韓国へ出向いたり、逆に日本に来てもらったりしてどんどん交流を深めていけるといいと思います。

私は今回の体験でたくさんの友達を作ったので、また韓国に行ける機会があれば会いに行きたいと思います。それでもっと韓国のことを探りたいと思います。そこで知ったことをほかの人にも伝え、みんなにも韓国に行ってもらい、韓国の良さを知ってもらえたならと思います。そうすることで日本と韓国が仲良くなり、領土問題も解決できると思います。私にできることが、小さいことかもしれません、それが大きくなると信じて前へ進んでいきたいと思います。

研修交流体験レポート

北名古屋市立西春中学校2年 水野 綺音

1. この国際交流プログラムで学んだこと

私が今回この交流に参加して一番思い出に残っていることは、初めてできた韓国人の友達のことです。私はキム・スビンちゃんというおとなしい子がペアでした。言葉も通じませんし、住んでいる環境も全く違います。私は日本へのホームステイのとき、緊張して何を話したらいいか分かりませんでした。結局始めのうちは私もスビンちゃんも黙ったままでした。今から思うと、もっと積極的に話しかけたり、ゲームをしたりして遊べば良かったと少し後悔しています。

しかし、夕食を友達家族と食べに行った時には、一緒に来日していたチョン・イェジちゃんもいて緊張もほぐれてきて、私たちともかなりうちとけてきました。お互いに片言の英語や、通訳のアプリを通してだんだん会話をすることができるようになってきました。また、自分が習った英単語で英文を作り、それが通じたときの喜びは本当に大きかったし、自信もつきました。今でもLINEのアプリを通して時々会話をしています。

韓国の学校の様子や人気のある日本の物語など、交流した約5日間では話せなかった話も伝え合うことができて楽しいです。私は今回の活動に応募し、参加させてもらったことは本当に幸運だったと思います。

2. 務安で感じたこと

務安では、韓国の伝統的な衣装のチマチョゴリを着ました。着物や浴衣ほどではありませんが、想像していたよりも着方が難しかったです。また、茶道の体験もさせてもらいましたが、日本とよく似ていました。細かく言えば異なる点もありますが、全体的には似ていたので驚きました。礼の仕方は腕の組み方や立ち方などが少し違いましたが、やはり日本と同じような文化を持つ国なのだと実感しました。

ホームステイを体験して、一番驚いたことは、韓国の家ではエアコンをほとんど使わないということでした。日本では普通につけていますが、韓国の暑さ対策は扇風機のみでした。ですから正直に言って、寝る時はとても暑かったです。しかし暑いといっても、日本より湿度が低かったので自分の家よりは断然過ごしやすかったです。また、これはスビンちゃんの家に限ったことですが、家で牛を飼っていて、その大きさにびっくりしました。



また、大変歓迎してくれている証拠に、お土産がとても多く、スーツケースほどの大きさの紙袋に入りきらないほどのお菓子やカップめんを頂きました。

さらに朝食に出てもらった総菜も十種類くらいありましたし、夜にショッピングモールに連れて行ってもらった時に自分で買おうと思っていた品をすべて買ってくださったりと盛大なもてなしを受け、嬉しくて感謝しきれません。また、夕食には焼き肉店に連れていってもらいました。そこでは網の上でハサミを使って肉を切りながら食べます。たれも日本のそれとはまったく違い、種類は一種類しかなく、塩コショウに油がかかったものでした。日本のようにたくさんの種類から好みのものを選んで食べるのもいいですが、シンプルな材料で作られた韓国の方も非常においしかったです。

食事の作法についても日本とは違いました。これは事前の講習会でも言われたことですが、お茶碗をもたない、ご飯はスプーンで食べる、座るときはいつもあぐら、ということでした。これらの作法をまねることは想像していたよりも難しかったです。まずお茶碗を持たないと服にこぼれてしまいそうですし、毎回毎回ご飯を食べる時に箸からスプーンに持ちかえるのも面倒です。ですから、つい忘れて日本式に食べてしまうことも多かったです。しかし、こういう韓国の食文化に触れることができたのも、ホームステイをさせてもらって韓国の生活習慣に触れることができたのも、貴重な体験になったと思っています。

3. これからの日本と韓国の交流について

日本にとって韓国は一番近い隣国です。だからこそ、もっと深く交流すべきだと私は考えます。困った時はお互いに助け合ったり、支え合ったりしなければならない存在だと思います。ですから、今回の派遣は、私たち中学生がニュースなどで見たり聞いたりする韓国ではなく、実際に韓國の人と触れ合い、人として交流し合うことで自分の目を通じて理解する機会になったと思います。

私は今回の派遣で自分が望んでいたよりもはるかに多くのことを学びました。この体験で得たことをこれからにつなげていけたらいいと思っています。



研修交流体験レポート

北名古屋市立西春中学校2年 山田 詩織

1. 国際交流プログラムで学んだこと

私は、今回の国際交流で韓国の伝統的な文化を肌で感じることができました。ソウルから務安郡に新幹線KTXで移動したときに、日本と同じ感覚で楽しく話していたら、近くにいた乗客の人に話し声が大きいと注意されてしまいました。

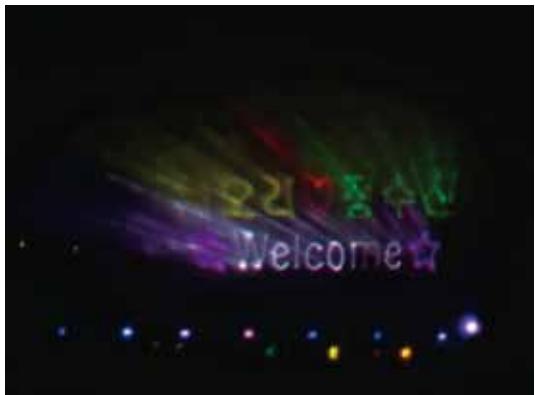
確かに少し声が大きかったかもしれません、日本では注意されるほどの大きさではありませんでした。けれども、韓国のKTXの車内では、静かにすることが常識になっているそうです。日本とは違う韓国の常識を知ることができ、よかったです。次に韓国に行くときに、KTXに乗ることがあれば、韓国のルールに従い、静かにしようと思いました。



2日目に宿泊したペンションは海の近くにあり、バスから降りた時に潮の香りがしました。そのペンションは大部屋だったので、それまであまり話さなかった他の学校の子と仲良くなることができました。お風呂は大浴場でしたが、日本と違い、湯船はなくシャワーのみでした。また、部屋は韓国式でオンドルと呼ばれる床下暖房がありました。後に昌徳宮を観光したときに、オンドルの造りの部屋があり、「こんなに昔からあったのか」と驚きました。私はオンドルについて興味を持ったので、調べてみました。床を暖めるための燃料は、かつては薪や藁などでしたが、1960年代から80年代にかけて練炭に変わりました。しかし、一酸化炭素中毒などの事故が頻発してしまったそうです。現在では温水床暖房が一般的で、ガスオンドルや電気オンドルを使用する家庭もあることがわかりました。

2. ホームステイを体験して

私は5日間の研修の中で、ホームステイが一番心に残りました。ホストファミリーだった



チョン・スジンちゃんのご家族は、とても良い人達で本当に嬉しかったです。夕食後、噴水ショーに連れて行ってもらいました。そこでは、サプライズが待っていました。なんと、ライトアップされた文字で「しおり♡チョン スジン ☆ welcome ☆」と書いてあったのです！それから、韓国語と日本語でホストファミリーから私へのメッセージがアナウンスされました。全部、お父さんが計画してくださいました。それを聞いて私はとても感動して、泣き

そうになりました。

その後、Eマートに連れて行ってもらい、お土産を買いました。何を買えばよいかわからず迷っていたら、「こんなのがいいと思うよ」などと、お父さんやお母さんが教えてくださつたりしたので、いいお土産をたくさん買うことができました。

少し困ったのは、言葉が通じにくかったことです。がんばって英語で会話をしようとしましたが、うまく伝わらず、スマートフォンの翻訳機能のあるアプリを使ったりして会話をしました。それでもきちんと翻訳されず、わかりにくいときもありました。

ホームステイは初めての体験だったのでとても緊張しましたが、ホストファミリーの皆様にはとてもよくしていただき、楽しく過ごせて良い経験になりました。もし、どちらかが韓国に行くか、日本に来ることがあれば絶対に連絡しようねと約束しました。すぐに会うことは難しいかもしれません、LINE 等を活用してこれからもずっと仲良くしていきたいと思います。



3. からの日本と韓国の交流について

私は今回の交流で、日本と韓国とのたくさんの繋がりを感じました。景福宮や昌徳宮などを見学して、建物には日本と似ていると思ったところと違うと思ったところがあります。似ていると思ったのは、建築様式です。法隆寺などのお寺の屋根の形と似ていると思いました。違うと思ったのは色使いです。最初に景福宮をみたときに色がとても鮮やかだったので、日本の建物は日本人好みに合わせて色使いが抑えられているのかなと思いました。特に、昌徳宮の屋根に蓮の花が色彩豊かに描かれていたのが印象的でした。韓国の建物はきれいでしたが、私



は日本の方が落ち着いた感じがして好きです。また、ソウルにあった駅は東京駅の造りにそっくりで驚いていたら、ガイドさんが「東京駅を設計した人と同じ人が設計したんだよ」と教えてくださいました。また、ソウル市内の観光中に、それぞれの観光地で一度は必ずガイドさんが「これは、戦争のとき日本に焼かれたので復元された建物です」といました。私は日本がこんなにたくさんの建物を焼いたり壊したりしていたのかとショックを受け、二度とそのよう

なことが起きてはならないと思いました。友好的な交流を続けることで両国の理解が深まり、文化や技術の発展も進むはずです。将来、今回の国際交流プログラムでの経験を生かし、私達が少しでも日本と韓国の架け橋になることができるよう努力していきたいです。最後に、このプログラムに関わってくださった皆様にお礼を申し上げます。

私達に素晴らしい機会を与えてください、本当にありがとうございました。

研修交流体験レポート

北名古屋市立師勝中学校1年 八 鍬 宗 親

1. この国際交流プログラムで学んだこと

ぼくは、この韓国務安郡への派遣プログラムがあることを知ったとき、きっととても貴重な体験ができるだろうと思い、応募しました。思ったとおり、とても貴重で、今しか味わうことのできない経験ができ、一生の思い出になったと感じています。

この国際交流プログラムを通して、ぼくはコミュニケーションの大切さについて学びました。

韓国の友達が家に来る日は、家族全員がドキドキしていました。ぼくもとても緊張していましたし、ワクワクもしていました。韓国の友達とはすぐに仲良くすることができました。お互いの国の言葉が通じないので、身ぶり手ぶりや、図を描いてコミュニケーションをとりました。言葉が必要なときは英語を使ってコミュニケーションをとりました。今もその友達と、英語でメールのやりとりをしています。お互いの言語が分からなくても、会話をすることができる、共通語としての英語の大切さを改めて感じています。

そして言葉よりもコミュニケーションをとるときに最も必要なのは、言いたいことをはっきり伝えようすること、言われたことを聞き入れて、理解しようとする気持ちが大切だということも、強く感じました。



<韓国の友達とみんなで行ったボウリング>

2. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

日本と韓国の違いで、すぐに気付いたのは、食文化についてです。食事のときのマナーや道具の違い、料理の違いです。日本では食事をするときに器を持ちますが、韓国で器を持つことは、行儀が悪いとされています。また、はしも違います。はしは鉄でできていて、長さも日本のはしよりだいぶ長く、重いです。はしを使うときはおかずを食べるときで、ご飯や汁物はスプーンを使って食べているのです。

料理の味付けも違います。ぼくが想像していた以上に韓国の食べ物に辛いものが多かったです。でもとても美味しかったです。

違ひばかりではなく、日本と似ていることも多くありました。まず、米が主食だということです。他にも汁物があったり、煮物があったり、揚げ物があったり、さらに鍋料理もありました。味付けは違っていても、調理の順序や方法などは、日本と本当に似ていて食べやすかったです。

食文化の他に、交通ルールも違いました。ぼくは海外に行くのは今回が初めてだったので、交通ルールが違うことにも驚きを感じました。車は右側通行で、人は左側通行でした。残念なことに、信号無視率がとても高いそうです。ぼくたちが乗ったバスは、信号無視をすることはありませんでしたが、運転が日本よりも少し荒かったです。そのためぼくは、バスに酔いそうになりました。

それからもう1つ、入浴についてです。韓国の人々はシャワーを使います。日本のように湯

船につかるということはありません。韓国の友達が、ぼくの家に来たときに、一緒に入浴しましたが、その友達にとって、日本の湯船の温度は、熱過ぎたようでした。湯船に足しかつけられず、つかっていた時間も、とても短かったです。世界全体から見ると、湯船につかるという習慣がある国は、少ないようです。



<韓国の有名な食べ物、ブルコギ>

3. これから日本と韓国の交流について

ぼくは、これからもこの国際交流プログラムが長く続けばよいと思っています。

ぼくは、この国際交流プログラムをスタートにして、どんどん、日本と韓国、そして世界全体が、お互いの文化を知るよい機会になってほしいと思っています。

ぼくはこのプログラムに参加することができて、とてもよかったです。この経験を生かして、ぼくは何事にも挑戦し続けていこうと思います。

このような機会を与えてくださった皆様に感謝しています。ありがとうございました（カムサハムニダ）。

研修交流体験レポート

北名古屋市西春中学校1年 加藤 伶奈

1. 務安で感じたこと

私は、8月5日から9日までの5日間、韓国の務安郡へ国際交流プログラムの一環として行つてきました。このプログラムに応募した理由は、昨年このプログラムに参加した人たちのレポートを読んで、楽しそうだな、務安という街へ行ってみたいなと思ったからです。他にも、本場の韓国料理を食べて見たいということや、韓国の文化に触れてみたいということなども理由がありました。

務安郡は、北名古屋市に比べ田畠がたくさんあり、自然が豊かで、のどかなところでした。務安郡に行った初日に歓迎会があり、韓国語で自己紹介をしました。事前研修会で文章を考え、たくさん練習していったのに、緊張してうまく話すことができませんでした。

務安郡で私が一番心に残っているのは、草衣禪師誕生地でチマチョゴリを着て、茶道体験したことです。チマチョゴリの「チマ」がスカート、「チョゴリ」が上の服を示しているそうです。リトルワールドで一度チマチョゴリを着たことがあるのですが、それとは少し違っていました。務安郡のみんなに手伝ってもらって着せてもらいました。務安郡のみんなは自分のチマチョゴリを持ってきて、自分でちゃんと着ていました。すごいなあと思いました。私は、浴衣が自分で着られないのでも、おばあちゃんに教えてもらって、いつかは自分で着られるようになりたいと思いました。



(務安郡の干潟)

2. ホームステイを体験して



ホームステイでは、白木中のありさちゃんと一緒にホストファミリーのスミンちゃんの家にお泊まりをしました。スミンちゃんが日本に来たときは、ありさちゃんと一緒にバーベキューや花火をして楽しんでもらいました。務安郡で私がホームステイするときは、スミンちゃんの友達も来ていた、一緒に過ごしました。

スミンちゃん家はマンションの14階でエアコンがなく、ドアや窓を開けて、扇風機のみで

生活していましたが、北名古屋市より暑くなく意外と快適でした。

夕食はサムギョプサルを食べました。おいしかったので「マシッソヨ」(おいしいです)と言ったら、スミンちゃんのお母さんが「Thank you!」と返してくれました。夕食後、買い物をしてパッピングスという韓国のかき氷を食べました。パッピングスはぐちゃぐちゃに混ぜて食べるのが普通で、おもちが入っていておいしかったです。その後は、マンションの遊具で遊んでからスミンちゃんの家に帰りました。家にもどつてからもいろいろなことをしていました。あまりにも楽

しかったので、気がついたら、寝る時間がだいぶ遅くなってしまいました。

言葉が通じないときに、スミンちゃんやスミンちゃんのお父さんがスマートフォンの翻訳機能を使って、伝えたいことを伝えてくれてとても助かりました。ホストファミリーの方々がとても温かく接してくれて、とても楽しい時間を過ごせました。またいつか、スミンちゃんの家を訪ねてみたいと思います。そのときは、もっと韓国語が上手に話せるようになっていたいです。

3. この国際交流プログラムで学んだこと

務安郡では、茶道体験以外にも干潟体験をしたり、白蓮池を見学したりしました。干潟では、カニや貝がたくさんいて、カニを捕まえたりしました。白蓮池は、たくさんの緑色の葉の中に白い花が咲いていて、とてもきれいでした。

この国際交流プログラムでは務安郡の他に韓国の首都ソウルに行きました。ソウルは高いビルが多く都会で、ケンタッキー・マクドナルドなどの私たちが知っているようなお店もありました。ソウルでは、景福宮や昌徳宮などのお城を見学しました。韓國のお城では、昔、臣下と王様で歩くところが違ったそうです。こんな決まりが今もあったら、外を歩くだけで疲れると思います。

この国際交流プログラムを通していろいろなことを体験して学びました。それは日本と同じようなこともあったり、違うこともあったりしました。



日本と同じだったのは、食事には日本と同じごはんが主食として毎回出てくることでした。米の色は白だったり、日本ではない黒だったりしました。黒米のご飯は日本の赤飯に色が少し似ていました。普段日本で食べているごはんとおなじような味でした。

逆に違っていたのは、食事のマナーです。韓国では食器やおわんを手で持ってはいけないということを知りました。日本とは逆なので、不思議だなと思いました。

日本では正しいこと、当たり前と思われることであっても、他の国の人から見れば、正しくないことや、当たり前ではないこともあるということを知りました。

そうした、違いを少しづつ理解しながら、スミンちゃんと仲良くなることができました。この友情をずっと大切にし、これからも交流を深めていきたいと思います。

研修交流体験レポート

北名古屋市立西春中学校1年 東 山 蓮

1. この国際交流プログラムで学んだこと

時間厳守の大切さや集団で行動するときの楽しさや、事故に遭うなどの危険さを学びました。

集団で動くときに一人でも遅刻したり、いなくなったりすると、そこにいる人だけでなくほかの人に影響が出てたくさんの人々に迷惑がかかってしまうので時間は集合時刻の5分前の時刻には集合場所に着かないといけないということを学び、実行できました。そして集団で行動するときはほかの人に迷惑がかからない程度に楽しみ、日本の代表という自覚を持ちながら中学生らしい節度を持った行動をとりました。4泊5日の韓国交流で学んだ体験はとっても貴重で、滅多に体験できないことなので、体験できた思い出は一生忘れられないものとなりました。

もう一つは国が違えば文化も違うということです。例えば、お茶碗は日本では持ったほうが礼儀正しいとされていますが、韓国では逆に、持って食べると行儀が悪いということになってしまいます。だから、郷に入れば、郷に従えという諺もあるように自国の文化は他国では通用しないことがあります。お互いの国の文化を知り尊重し合うということが大切だということに気付かされました。この国際交流プログラムに参加して、貴重な体験になりました。この経験を人生の糧にしていきたいです。



この国際交流プログラムで一番楽しかったことはホームステイです。その中でも、木浦の噴水です。何故かというと、水と光と音楽が絶妙にあっていて、すごく綺麗で感動しました。未だに噴水の光景が脳裏に焼きついています。そして、一番美味しかった食事は、プルコギです。何故かというと肉とタレが非常に合っていて、当然ですが白米にとてもあったからです。逆に、僕の口に合わなかつた食事は、定食です。何故口に合わないかと

いうとマスターソースが合わないので何でもかけてあり、ホームステイのパーティーの時はたこ焼きにまでマスターソースがかかっていて日本に帰っても1週間ぐらい胃がおかしかったです。

2. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

日本と韓国の共通点は人が皆優しいところです。迷ったり、困ったりしていても声をかけてくれたり、優先してくれたり日本も韓国も両方、人の心も環境も温かくいいところでした。相違点は、日本よりも韓国の方が年上の人を敬い尊重しています。韓国は1つでも先輩の友達がいたら敬語を使い、親にも敬語を使っていました。しかし日本は友達と先輩の秩序がなく誰にでもタメ口で接してしまう人が多いです。そこはしっかりと先輩には敬語で、同級生や後輩にはタメ口で会話して欲しいです。最低でもその努力は絶対にして欲しいと思います。あと韓国は皆英語が万能でした。韓国はアジアで英語力30カ国中8位なのにに対し、日本はなんと28位とワースト3です。あとは韓国の道路などが広く同じ郡内を移動するにしても高速道路を



な課題を抱えていることがわかります。

使って移動することです。従って、車が多くて自転車は少なかったです。一般道路は日本より多くて驚きました。バス専用車線というのもありました。更に、韓国は日本と真逆で、左側通行・左ハンドルでした。交通量が多いのですが韓国の車の運転はあらい人が多いです。なんと韓国は信号に関係なく、右折できるのです。しかも、赤信号だからと止まっていると、後ろからクラクションを鳴らされます。これらのことは、日本も韓国もいろいろ

3. これからの日本と韓国の交流について

これからも近い国である韓国と日本が、両国の仲を深め今まで以上の関係を築いていけたらいいなと思います。そして、日頃からの態度などを改めて生活することで自分も日本と韓国の仲を深めることに貢献できたらいいなと思っています。さっきも書いたように先輩に敬語を使うところは見習うべきだと思います。そしてお互いにいい関係で切磋琢磨し更にレベルを上げ中国、米国らの国を追いこすような技術を身につけて、まず国の借金をなくして欲しいです。10年後、20年後と日本と韓国は貿易や旅行などの面で協力してもっと世界が活性化して行けるような二国になっていたらいいなと思います。そしてその頃には僕もその活性化に協力しているような、日本国民になれたらいいなと思います。日本と韓国は、もっと交通の面で便利になって、素早く行き来できるような国になっていて欲しいです。僕はもっと日本と韓国の仲を互いに深め韓国の人々に日本にもっと親しみを持って欲しいし、日本人も韓国に親しみを持って欲しいです。そのためには日本と韓国の名を世界に轟かせることが必要だと僕は思っています。最後に、僕はこのプログラムで、また韓国に行きたいと思ったので、韓国の人もまず一回日本に来てもらって日本の楽しさを味わってもらって、もう一回来たいという思いを持ってもらいたいです。

研修交流体験レポート

北名古屋市立白木中学校1年 犬飼ありさ

1. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

私はこの国際交流プログラムで、8月5日から5日間韓国へ行きました。そこでは、日本と韓国の文化の違いについて様々なことが分かりました。それは主に3つあります。

第1に、言葉の伝え方です。日本人はあいまいな表現をすることがあります、韓国人は日本人と違ってはっきり物事を伝えると私は感じました。例えば、ホームステイ先のお母さんに「あなたっておとなしいの？」とはっきり聞かれ戸惑いました。反対に日本人は、遠慮してはっきり物事を言わないといました。そして、韓国人達は私たちに積極的に話しかけてくれ、コミュニケーションの機会が増えました。しかし、日本人と韓国人で共通するところもありました。それはみんな優しい気持ちをもっていることです。日本での観光の時に私は帽子を忘れたのですが、韓国の交流生が2つ持っていました。その人は私に、こころよく貸してくれました。それで私は嬉しくなりました。

第2に、交通機関についてです。ガイドさんに教えられて気づいたのですが、道路に青い線がありました。韓国は、バスを多く利用するため、交通手段としてバス自体も発達しており、バス専用レーンがあります。このレーンは渋滞を少しでも解消するためにあるそうです。そして、高層ビルもたくさんありますが、中には、木々も植えられて自然もありました。



第3に、文化についてです。韓国には辛い料理が多くありますが、日本と同じ小豆を使った羊羹など甘い食べ物も見つけました。また、コンビニには日本産のお菓子もたくさん見かけました。日本で見る新製品まで揃っているのには、驚きました。他にも日本の技術は優れていると韓国では信じられているため、日本の製品のものは高く売られています。

日本の物が韓国にもたくさんあり、私は韓国を身近に感じることができました。日本と韓国は隣国であり違うところもありますが、同じ文化が流行していく似ている物もあるのだと思いました。

2. ホームステイを体験して

私はホームステイをするのは初めてのことなので、とても緊張しました。交流生の家は高層マンションの14階にあり、そこで一泊しました。初めは何を話していいか分かりませんでしたが、勇気を出してお母さんに英語で話しかけてみました。しかし首をかしげていたので、お母さんには英語が通じないということが分かりました。「どうしよう」と困っていた時、交流生が韓国語から日本語へ変換できるLINEのアプリで会話できることを教えてくれました。それからお母さんとは翻訳アプリで会話をし、交流生とは英語で少しずつ話ができるようになり、コミュニケーションをとりました。そして家族のみんなでお母さん手作りのご飯をいただきました。料理は7種類あり、メインは肉をサンチュで巻くものでした。愛情がこもっていておいしかったです。その後の買い物では日本の百円均一のようなお店へ連れていってくれました。そこでは、私におみやげを買ってきました。これもとてもいい思い出になりました。

3. この国際交流プログラムで学んだこと

私はこのプログラムに参加する前に目標を3つ立てました。

1つ目は友達を作るということです。同じ学校の友達がいたので少し気持ちが楽になり、勇気を出して話しかけることができ北名古屋と韓国の両方に、友達ができました。また韓国の子が話しかけてくれたことも嬉しかったです。

2つ目は文化などの様々な違いを体験することです。韓国では茶道を体験したり、チマ・チョゴリを着たりしました。茶道では、お茶の入れ方を教えてくださいました。日本の抹茶を入れる時よりも、手順が長く大変に感じました。お茶を入れる体験をした時に何度も間違えましたが、私の入れたお茶を飲んでくれた子が「美味しい」と言ってくれた時、ホッとしたという気持ちが一番強かったです。また、チマ・チョゴリは思っていたよりも生地が薄く着物より涼しかったです。色も明るく刺繍もあり、可愛かったです。

3つ目は英語での会話力を上達させるということです。英語で会話をしましたが、いきなり話しかけられると言葉が出てこなかったり、聞き取れなかったりして悔しい思いをしました。これからはこんな思いをしないように普段から英語をたくさん話して、色々な場面で使いながら英語力を上げたいです。このように目標を達成することができましたが、課題も残りました。

また、このプログラムでは、団体行動の大切さも改めて分かりました。私はホテルで時間厳守ができず、周りの人に迷惑をかけてしまい反省しました。他にも韓国最速の新幹線KTXに乗った時「うるさい」と注意されました。だからルールやマナーを守る気持ちが、団体行動では特に大切だと思いました。

最後に、私はこのプログラムに参加して、「国や言語が違っていても、心で通じ合える、そして一人一人が心から楽しく会話ができる」ということを体験し学びました。



今、世界中では紛争や戦争がたくさん起こっています。大人は自分ではそのことをしたいと思っていないのにもかかわらず、人の意見をあまり聞かないのだと私は思います。子どもは皆、仲良くなれるのにどうして大人はなれないの?といつも不思議に思います。子どものように大人も素直になって話し合えば戦争はなくなると思います。私は戦争がなくなり、世界中に笑顔が増え、たくさんの国々の人が色々な人とコミュニケーションをとれるといいなと思います。

滅多にないこのような貴重な経験ができて、今まで気づかなかつたことに関心が持てるようになります。視野が広がったと思います。そして日本と外国との平和関係について今後も関心をもっていきたいです。

研修交流体験レポート

北名古屋市白木中学校1年 宮田 千絵

1. 日本と韓国の相違するところ、共通するところ

8月5日から8月9日までの5日間、務安郡派遣中学生交流プログラムに参加しました。楽しみにしていたことの一つは韓国での食事でした。日本ではスーパーのフードコートなどでもビビンバなど韓国料理を食べることができますが、本格的な韓国料理を食べたことがなかったのでとても楽しみにしていました。同じアジアで隣国であり、歴史的にも昔から交流があった国だからなのでしょうか、米が主食だったり、海苔があったり、お漬物があったりと日本と似たところがありました。韓国の海苔巻きは味は違っていましたが、見た目は日本の太巻き寿司とよく似ていました。ホームステイ先のミンウ君の家の朝食も日本の和食の朝食とよく似ていました。また箸を使って食べるところなどは似ていますが、食事作法は少し違っていました。韓国では食器は持ってはいけない、白飯はスプーンで食べること等です。その違いは韓国でも知られているようで、ミンウ君は我が家へきたときに、とても食べにくそうに茶碗をもちながら箸で白飯を食べていました。一番印象的だったのは8日に食べた参鶏湯(サムギエタン)です。これは鶏肉の中にご飯や高麗人参をつめて、スープで煮てあるものです。まず見た目がグロテスクで少し驚きました。塩を少しずつ足しながら食べていきます(写真参照)。私は高麗人参の味が苦手でしたが、見た目よりおいしかったです。ビビンバは日本で食べるものと似ていたのですが、辛かったです。韓国で食事をすると必ずキムチがついてきます。日本で食べるキムチより辛いことが多いのですが、それぞれの家庭の味があるようでミンウ君の家のキムチは甘くておいしかったです。私はあまり好き嫌いのないほうなので色々な食べ物にチャレンジしましたが、韓国の食事には辛いものが多く食べられないものもありました。それなのに韓国のお子さん達は平気な顔で食べているのを見て驚きました。



2. ホームステイを体験して

私が何より楽しみにしていたのは7月23日に我が家に来てくれたミンウ君との再会とホームステイでした。6日に務安郡に到着し、夜の歓迎会にはミンウ君のお母さん、お姉さんが来てくださいり、通訳の方をはさんで色々な話をしました。翌日のホームステイでは、ミンウ君の家族はもちろん、ミンウ君の友達や親戚など大勢の方々が私のために集まってくれたり、焼肉店で楽しく食事をしました。韓国ではお祝い事や来客があるときはこのようにみんなで外食をする習慣があると後から知りました。日本にミンウ君が来てくれた時は家で母や祖母の手料理を食べたのですが、どう感じていたのか少し不安に思いました。生活面ではいくつか文化の違いを感じました。お風呂にはシャワーしかないこと、敷き布団がすごく薄い(冬は床暖房がきいているので暖かいからです)こと、小さな子ども達までスマートフォンを持っていることです。私は言葉(韓国語や英語)が不安でしたが、スマートフォンの翻訳サイトを使いコミュニケーションをとることができました。韓国語は2回あった研修で教えていただいた挨拶と自

己紹介を中心に使いました。私が上手に話すことができなくとも、韓国の家族の方は一生懸命に聞いてくださり、やっとの思いで通じた時はとても嬉しかったです。韓国語がわからないときは英語やジェスチャーも使いました。お互いに聞こう、わかり合おうと思うと気持ちは通じ合うものだと思いました。これからもミンウ君の家族と交流を続けていくためにも語学は大切だと感じています。たった1晩だけお世話になったのですが、お母さんはとても親切にしてくださり、お別れのときはスーツケース半分を占めるほどの大量のお菓子と韓国コスメのお土産をくださいました。家へ帰ってから弟たちと食べてみると、パッケージは韓国の中でしたが中身は日本でよく食べるお菓子の味でした。よく見てみたら「カルビー」「ロッテ」と書いてあったので笑ってしまいました。日本人と韓国人は好きな味が似ているのだなと思うとともに、お母さんの気持ちが嬉しかったです。



3. からの北名古屋市と務安郡の交流について

私は今回の交流プログラムに「韓国の友達をたくさん作りたい」という思いをもって参加しました。数日間でしたが、とても充実した時間を過ごせ、友達もたくさんできました。そして色々な刺激を受けて韓国や日本の生活や文化、歴史などに興味がわくようになりました。行く前は地理や歴史の教科書でしか知らなかった韓国ですが、今はニュースや新聞に韓国があるととても気になります。最近はいいニュースばかりではないので心配になるときもありますが、私たちが小さな交流を続けていくことでお互いの国をもっと身近に感じ、理解しあえるといいなと思います。中部国際空港から韓国まではたった2時間です。務安郡はソウルから少し離れますが、自然がとても豊かでよいところです。沢山の蟹や貝がいる広い干潟、一面に広がる睡蓮の池は、また家族や友達とは是非訪れたいと思うところでした。そしてなにより韓国には今回できた友達や家族がいます。今度行くときにはもう少し韓国語や英語も覚えて、私のことや私の住んでいる町のことをもっと知ってもらいたいと思います。これからも交流を続け少しでも多くコミュニケーションが図れるように、今後も勉強を頑張っていきたいと思います。



研修交流体験レポート

北名古屋市立熊野中学校1年 酒井 裕資

1. この国際交流プログラムで学んだこと

ぼくは、この交流で会話の難しさや交流の楽しさを知りました。やはり身にしみたのは、会話の難しさです。自分では単語やフレーズを覚えたはずが、いざ、実際に使おうとすると言葉につまってしまい、なかなかうまく伝えることができませんでした。それでも、お互いに辞書をひきながら、そしてボディーランゲージも交えて、何とかコミュニケーションがとれたときの喜びは格別でした。

一日目の務安郡庁の歓迎会では、自己紹介がありましたが、ぼくは「早口にならないように、はつきりと大きな声で話そう。」と思っていました。そして、自分の番になり、マイクを渡された瞬間、今までどきどきしていた心臓の鼓動が、急に収まり落ち着いて、思ったとおり自己紹介をすることができました。終わったときには、いっせいに大きな拍手が聞こえてきて驚きましたが、同時にとても満足した気持ちになりました。あとで、お母さん方や先生方にはめられてとてもうれしかったです。

今回、交流をしてみて、言葉が違っていてもお互いのことを考え、それぞれの文化を尊重し合い、想像力を働かせて、積極的にコミュニケーションをとる努力をすれば、分かり合えることがたくさんあると感じることができました。



2. ホームステイを体験して



二日目の夕方から、ホストファミリーのチョ・ヨンソク君の家で初めてのホームステイを体験しました。最初は緊張のあまり、何を話せばよいのか分からなくなり、困りましたが、ホストファミリーのお母さんやチョ君、そしてキム君が「なにがしたい?」、「大丈夫?」と優しく声をかけてくれて、徐々に緊張がほぐれてきました。

夕食は、お父さんが焼いてくれた皿に山盛りのカルビと、5種類ものキムチなどが出きました。カルビは日本で食べるよりも味が濃く、キムチはとても辛いものもありましたが、ぼくは大好きなので、とてもおいしかったです。そして覚えたはずの「すみません、もうお腹がいっぱいです」というフレーズが、とっさに言えず、料理がたくさん出てきてしまいました。がんばって食べましたが残してしまい、失礼なことをしたなど反省しました。

そして、一番心に残っているのが夜、車で10分くらいのところにある海辺に行ったときの

ことです。とても美味しい焼きとうもろこしを食べながら、打ち上げ花火を楽しみました。そして空を見上げると、見渡す限り、満天の星空が広っていました。それは初めて見る光景でした。そして、そこでは、海岸にあるお店で働いているおじいさんが、小さな気球のようなものに火をつけて、それぞれの願いをこめながら、空に飛ばすという韓国の伝統文化を体験させていただきました。何を願おうか迷いましたが、残念ながら火がつかなくて飛びませんでした。将来の夢は？と聞かれた僕は「ギョンチャル」（警察）と答えました。するとおじいさんが「日本で警察官になってがんばれよ」と励ましてくれて、ぼくは、とてもうれしくて温かな気持ちになりました。

3. 日本と韓国が共通するところ、相違するところ

今回、体験したなかで共通することの一つは礼儀です。どちらの国も礼儀を重んじます。特に、茶道などの文化は日本と似ていて、礼儀と作法がしっかりと継承されています。実際に韓国の茶道を体験しましたが、年上の人への礼儀作法はとてもゆっくりで複雑でした。特に、お茶を入れる人（もてなす人）の動作が、難しかったです。もう一つの共通する点は、夏の気候が似ているということです。名古屋も蒸し暑いですが、務安郡は名古屋よりもさらに、じめじめとして蒸し暑く、セミもたくさんいました。

一方相違する点の一つに、日本ではあまり見かけないUターンマークがいたるところにある



ことです。実際にぼくたちの乗ったバスがUターンするときに、車が追突するのではないかと、ひやひやしました。二つ目に韓国のホテルや空港などのトイレでは、紙を流してはいけないというルールがあり、少し不便だと思いました。三つ目は、韓国では日本と違い、ご飯を食べるときに、スプーンを使うことです。おかずなどははしも使いますが重く、長くてとても使いにくかったです。

このように、日本と韓国は同じところもありますが、違ってくるところもあり、魅力的だなと思いました。

今回の交流で、僕は一つ上の階段に上った気がします。一つ上とは、友情を大切にし、伝え合い助け合うことを学んだということです。できればこのような体験をもう一度してみたいですね。

研修交流体験レポート

北名古屋市立熊野中学校1年 中 串 茉 裕

1. この国際交流プログラムで学んだこと

私は8月5日～8月9日までソウル・務安郡に行きました。4泊5日というとても短い期間でしたが、楽しくたくさんのこと学ぶことが出来ました。最初は初対面の子たちと韓国に行くことに不安がありました。そんな中にも、心の端には楽しみや期待感がありました。

私がこのプログラムに参加しようと思った一番の理由は、兄がこのプログラムに以前参加したからです。ホームステイした子とメールのやりとりをしていて、4年たった今でも続いています。それを見て、私も違う国の子と、いつまでも交流したいと思いました。もう1つは、海外に行って違う国の子と友達になって、日本との違いや、お互いの国のこと話してみたいと思ったからです。



務安郡では牧場に行ってチーズを作ったり、チマ・チョゴリを着たり、有名な白蓮池を手こぎボートから観たり、ペンションに泊まったりとたくさんことを体験できて、改めて参加して良かったなと思います。ペンションではシャワーは水しか出ず、食事は口に合わなかったので大変でした。しかし、女の子がみんな同じ部屋だったので他学年の子とも仲良くなることができて楽しかったです。また、韓国文化の体験で着たチマ・チョゴリは裾が長くて歩きにくかったです。同じ場所で茶道もしましたが、とても難しかったです。たくさんの色がある中から好きなものを選べて嬉しかったです。食事では、参鶏湯（サムゲタン：鶏肉を丸ごと使い中に白米や高麗人參などを詰めた料理）、ビビンパ、トッポギ（餅を使用した煮込み）、キムチなどいろいろ食べました。その中でも作法ではご飯は、器を持たずに食べるなど、日本とは違い戸惑うこともありましたが、今思えばどれも良い経験だったなと思います。

一番大変だったことは言葉の違いです。日本語は全くと言っていいほど通じません。事前研修でハングルを習ったものの、いざとなると話せなくなりました。ほとんど交流相手のウンジョンさんのスマートフォンで会話をしたので、もう少しハングルを勉強すれば良かったなと思いました。

2. ホームステイを体験して

私は同じ年のジャン・ウンジョン（張允貞）さんの家にホームステイしました。初めて会った家族の第一印象は優しい&明るいでした。家族が私の知人に似ていてとてもびっくりしました。唯一困ったことと言えば家のお風呂です。トイレとお風呂はつながっていて、浴槽はなくシャワーと桶だけでとてもびっくりしました。不安になりましたが、良い経験だと思って入りました。思ったとおり、とても難しくてまともに洗うことが出来ませんでした。申し訳ないともしていました。夜に鼻血を出して枕を汚してしまったのです。朝起きて謝った時に「ゴシゴシ洗ったから大丈夫！」と笑顔でジェスチャーしてくれたので、優しいなと思いました。

「家が田舎にあり、家でご飯を食べると買い物をする時間が短くなるから」と夕食は家から

離れた商店街で焼き肉を食べました。ユンジョンさんのお父さんに、「電話番号教えて。あなたの家族と話してみたい。」と言われたので日本の私の家に電話しました。電話に出た私のお母さんは元気な声だったので安心しました。ユンジョンさんのお父さんに代わると私のお母さんはびっくりしていました。私の家族と話せてユンジョンさんのお父さんはとてもニコニコしていました。私の家族の事やユンジョンさんの家族の事をお互いに話しました。ちゃんと通じたかはわかりませんでしたが、たくさん話すことができたので良かったです。食事の後に、買い物をしました。お菓子や、ユンジョンさんと妹のミンジョンさんと3人おそろいのキーホルダーを買ってもらい嬉しかったです。みんなでアイスも食べました。家族が私に色々質問してくれたので、話が盛り上りました。帰国後ユンジョンさんからメールが来て、その後メールのやり取りをしています。

3. これからの北名古屋と務安の交流について

韓国は日本からいちばん近い国ですが、言葉が違ったり生活の仕方が違ったりと良い経験が出来るプログラムなので、ずっと続けば良いなと思います。韓国に行ったからこそ、普段味わうことのできない体験ができました。もう少しホームステイ先の家族と過ごす時間を長ければもっとよかったです。今私が、年下の子に一言言えるならば、こう言いたいです。「このプログラムに参加して損はない。」と。

私はこのプログラムに参加して、一生忘れることのできない思い出と最高の友達を沢山さん作ることができました。韓国に行く機会があったら務安郡に行ってユンジョンさんと家族に会いたいです。その時はもっとコミュニケーションができたらしいなと思います。そして、この交流がずっと続いたら嬉しいです。最後にユンジョンさんと家族に、感謝を伝えたいです。「カムサハムニダ！！！」



務安郡青少年交流団受入れ滞在日程表

月／日／曜	時間	便名等	内 容	備 考
1 日目 7月22日(月)	10：50 11：30～12：00 12：00～12：40 13：00～14：00 14：40～15：00 15：00～15：15 15：30～16：00 16：10～17：50 18：00～19：30 19：30～20：00	OZ122 (アシアナ航空) 専用バス 西庁舎 旧加藤家 もえの丘 交流会 専用バス	仁川国際空港発→中部国際空港着 中部国際空港発→名古屋市内 昼食 駐名古屋総領事総領事表敬訪問 北名古屋市副市長表敬訪問 日本文化体験（浴衣着用） 日本文化体験（お茶席） 日本文化体験（麺打ち） もえの丘発→ホテル着	北名古屋市中学生合流 保護者参加 (アイリス愛知泊)
2 日目 7月23日(火)	9：00～ 9：30 9：35～11：15 11：30～12：30 12：30～15：00 15：00～16：00 16：00～16：25 16：30	専用バス	西庁舎発→ホテル移動 名古屋城/本丸御殿見学 (日本歴史文化見学) 昼食 名古屋港水族館見学 水族館発→東庁舎 歴史民俗資料館見学 その後、ホストファミリー宅へ	北名古屋市中学生合流 保護者出迎え (ホームステイ)
3 日目 7月24日(水)	12：00～13：30 13：30	昼食	(ホストファミリーがアレンジ) 次の研修先へ	中学生全員集合

7/22

北名古屋での 研修交流体験 アルバム





旧 加藤家
茶席 & 浴衣
体験



うどん打ち
体験
もえの丘





7/23



名古屋城
本丸御殿



歴史民俗
資料館





(発行)

**北名古屋市人事秘書課
北名古屋市国際交流協会**

〒 481-8531

愛知県北名古屋市西之保清水田 15 番地

T E L : 0568-22-1111 F A X : 0568-25-1800

U R L : <http://www.kitanagoya-kiia.jp/>